

紅英堂
有梓

梅
竹
西
画



初編下

~ 13

3826

2

影
身
作



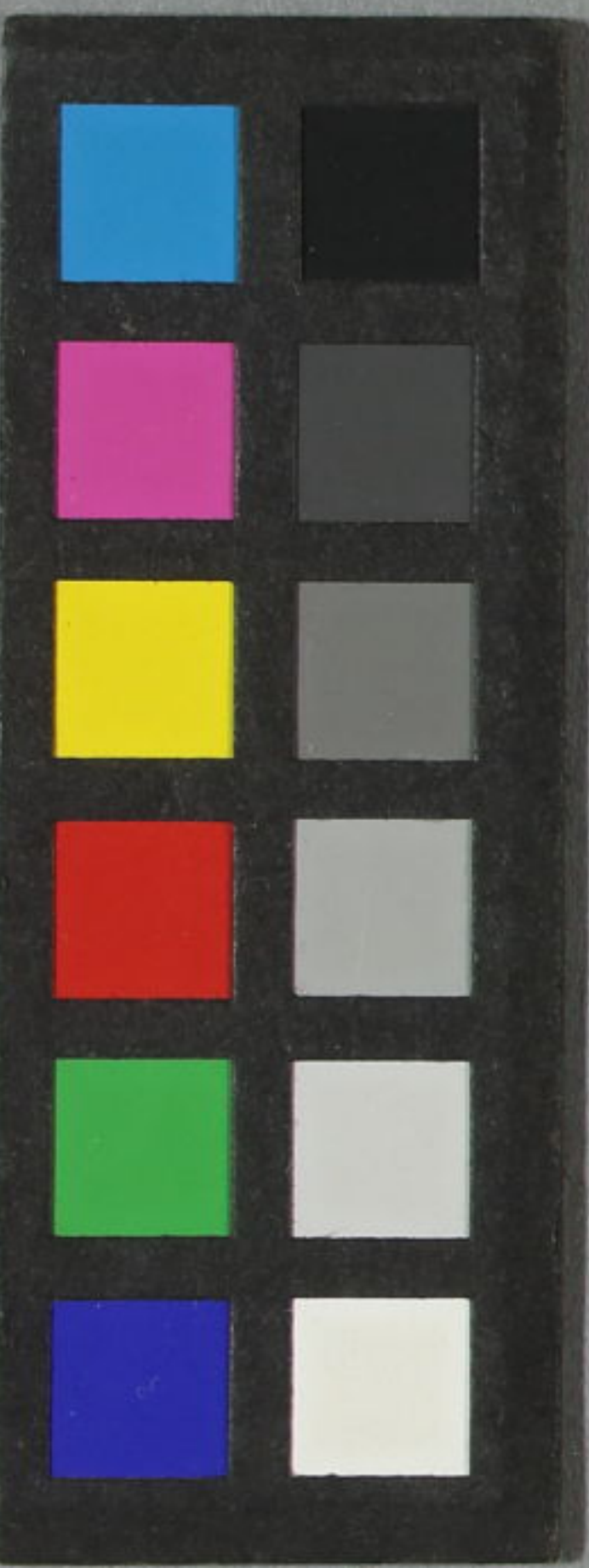
假
名
情
話
忠
雌
急

初編下

~ 13

3826

1



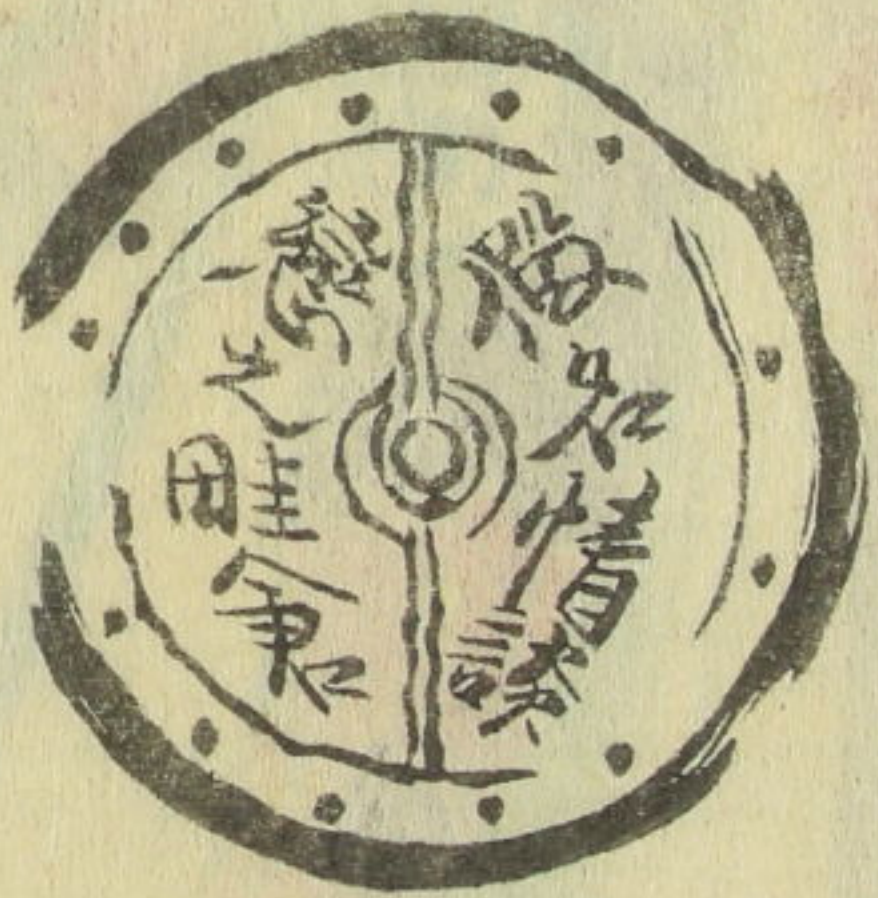


門 13
3826
卷 1

概況を捉え計
術十四節が公の書封
者何れも味ある全
十法ありて探後難

作者 瀬川如皋
画師 梅蝶樓國貞

文久三年春 初編上帙



紅英堂壽梓

假名情潭戀蛙倉 序

故人左文南北が歌舞妓の仕組も流石を二首の間の様子を彫りて
神更草舞の一時好まを穿入せば世態浮き世を映し
瓶の奇法を春の燈りくよ。慶紅英堂の需ありと國貞上人の妙ある道
音の腰襦と博識のふりつ止月早春のめざれども一日の青空を首の演劇の
脚色しもの情をなや探りての伏見近も知る。あまは探稿の大意を
先づ筋経洋の緒を常盤の色の高砂の播く有馬の人形を
出の趣向の机と張扇よりつが様意馬も狂の妙。續然若花の裏を
画廻の顔色梅窓欄の真実を春の時々帯く編を雨巻と更拙は辞も
昔を得てを存と流るる。其真を吉兆藏入る。利市萬福と後一演

文久 初春

瀬川如皋誌





播磨之家臣
 畦倉主殿
 初名十三郎
 曾根の社之神
 能主命之應
 言と勤む
 狂

畦倉十四郎
 此少年後
 今五十七
 様松
 振よ紛
 畦倉



司之大夫久國嫡男
 播磨司之助
 久輝

久輝之
 藤
 江

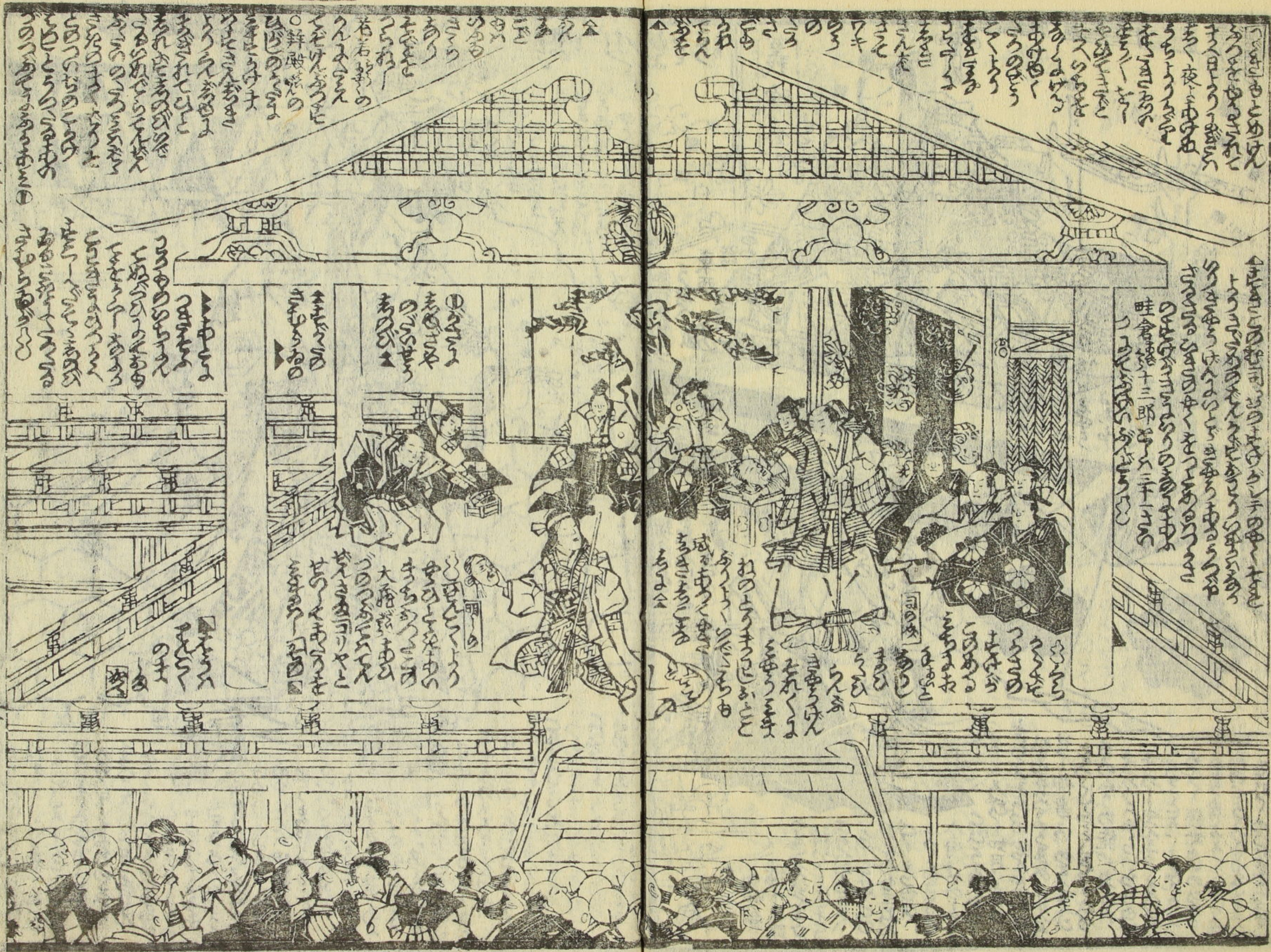


遊び
於照子懸
想



敷屋
娘
於照
播磨之
長士
住倉
十四郎

墨水
花



此の如くは
 昔の如くは
 今も昔も
 変わらぬ
 人情の
 世に
 流るる
 水は
 石を
 穿つ
 如く
 世に
 流るる
 人情は
 世に
 穿つ
 如く

此の如くは
 昔の如くは
 今も昔も
 変わらぬ
 人情の
 世に
 流るる
 水は
 石を
 穿つ
 如く
 世に
 流るる
 人情は
 世に
 穿つ
 如く

此の如くは
 昔の如くは
 今も昔も
 変わらぬ
 人情の
 世に
 流るる
 水は
 石を
 穿つ
 如く
 世に
 流るる
 人情は
 世に
 穿つ
 如く

此の如くは
 昔の如くは
 今も昔も
 変わらぬ
 人情の
 世に
 流るる
 水は
 石を
 穿つ
 如く
 世に
 流るる
 人情は
 世に
 穿つ
 如く

此の如くは
 昔の如くは
 今も昔も
 変わらぬ
 人情の
 世に
 流るる
 水は
 石を
 穿つ
 如く
 世に
 流るる
 人情は
 世に
 穿つ
 如く

此の如くは
 昔の如くは
 今も昔も
 変わらぬ
 人情の
 世に
 流るる
 水は
 石を
 穿つ
 如く
 世に
 流るる
 人情は
 世に
 穿つ
 如く

主

西

五

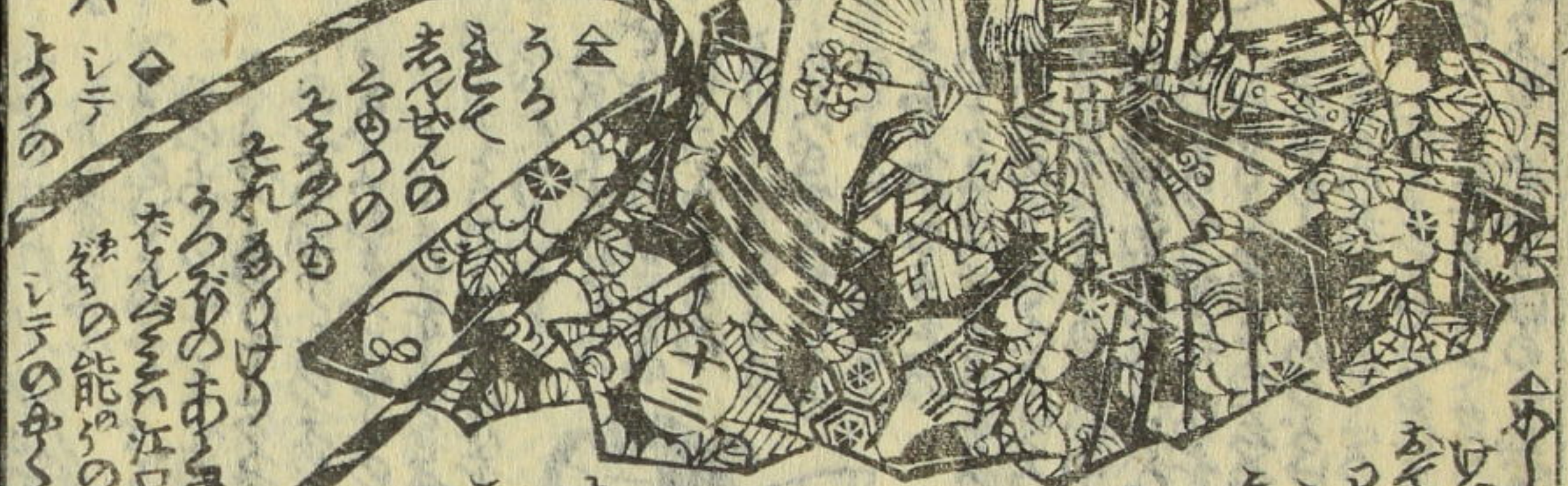


田舎



田舎

Vertical text columns on the top right page, likely a preface or introductory text.



Vertical text columns on the middle right page, continuing the text.



Vertical text columns on the top left page, likely a preface or introductory text.



Vertical text columns on the bottom left page, continuing the text.



川根

川根

九木



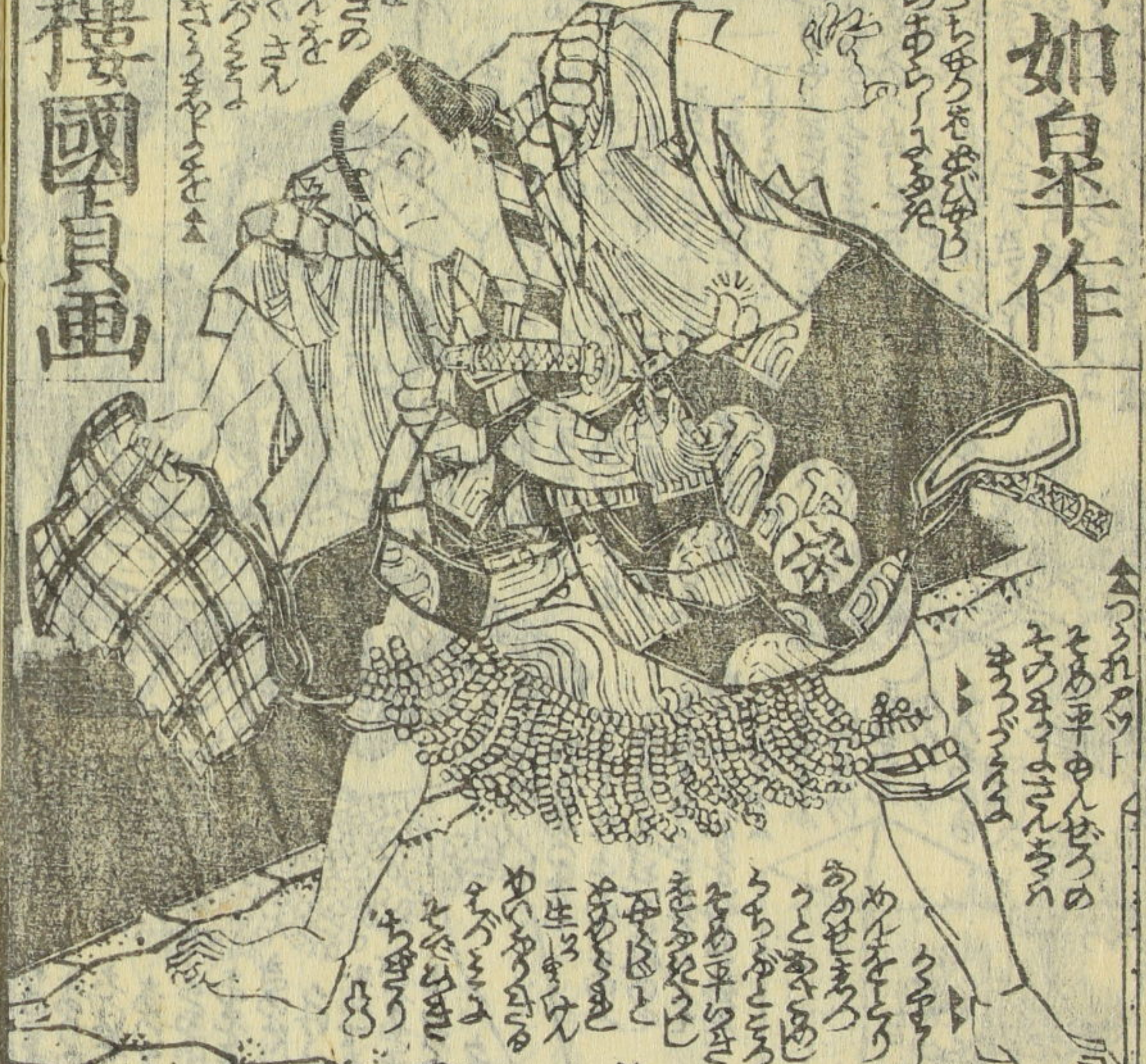
男坂寄進
招福講中

川根

川根

瀬川如皋作

此の如皋は、
 瀬川に生れたる
 名士にして、
 文章の妙、
 筆墨の秀、
 世に知られ、
 今も尚、
 人々に傳へ、
 其の徳を、
 慕はるる也。



その平ゆいせうの
 そのまゝにせんさう
 まじりて
 うめをせし
 あめをせし
 こゝろをせし
 うちをせし
 その平ゆいせう
 まじりて
 うめをせし
 あめをせし
 こゝろをせし
 うちをせし

梅蝶樓國貞画

高札場の
 梅蝶樓國貞
 画

せんきののゆき

御用薬川 信州上田東山堂製

包 四十八個
 包 廿四個

實母散

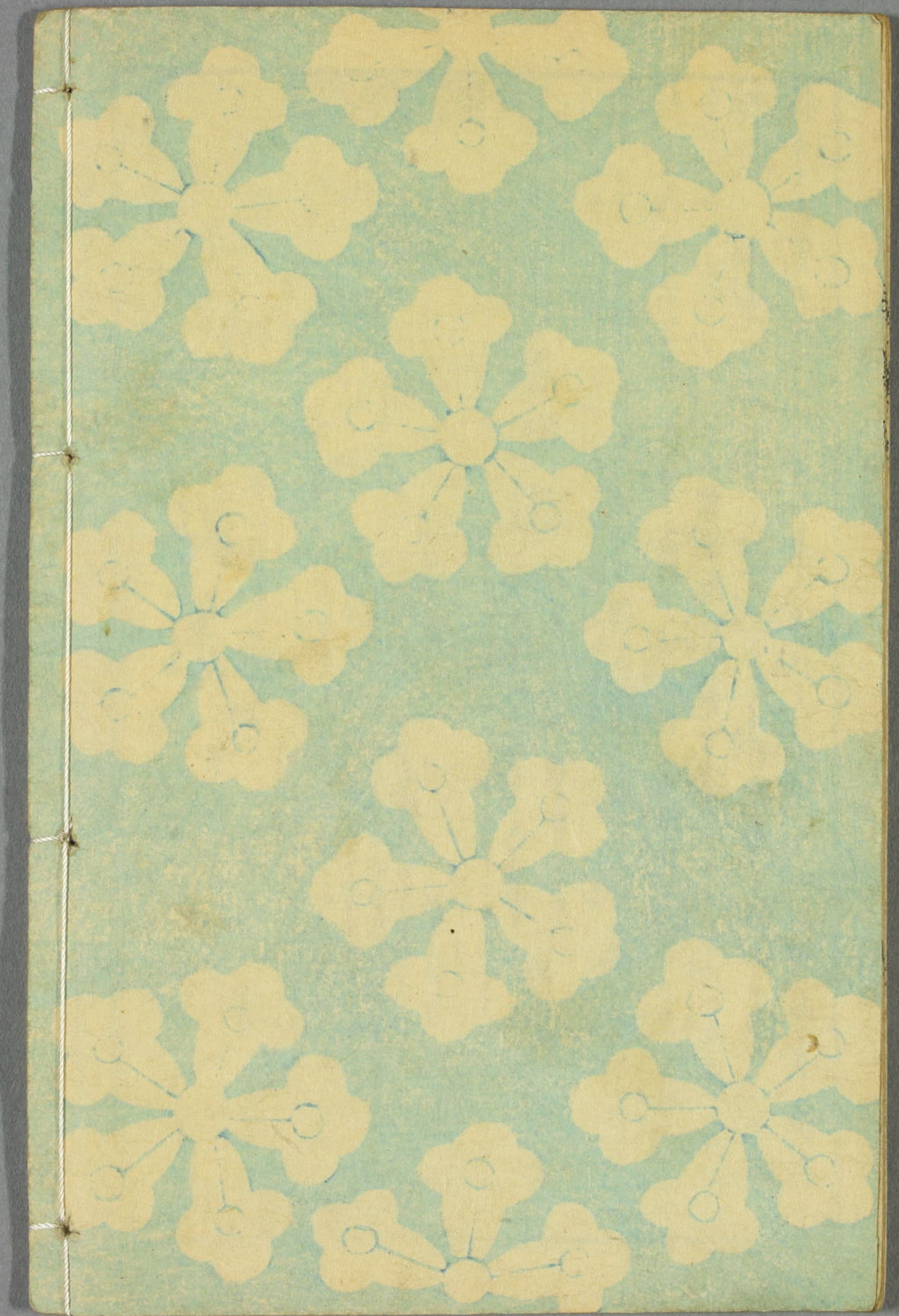
本家

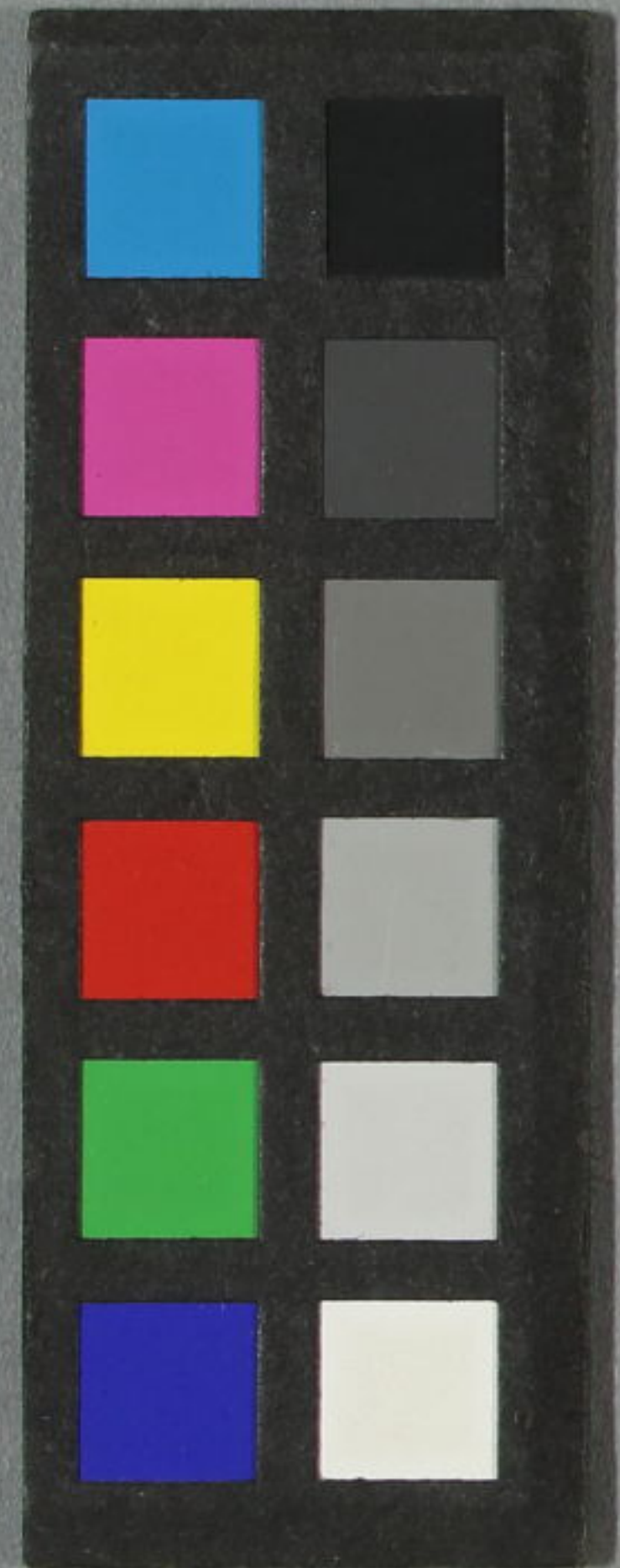
私方東田の
 實母散
 中橋南傳馬
 十餘年
 種彦作國貞畫

七ふきの葛飾譚

自叙編到五編當する書也
 六篇以下引續賣出申入
 種彦作國貞畫

古来本所
 作者の構思
 七ふきの葛飾譚
 紅英堂敬白





紅英堂
西貝画
物
橋



初編下

~ 13
3826
2



Handwritten text in vertical columns, likely a narrative or dialogue, surrounding the illustrations on the right page.

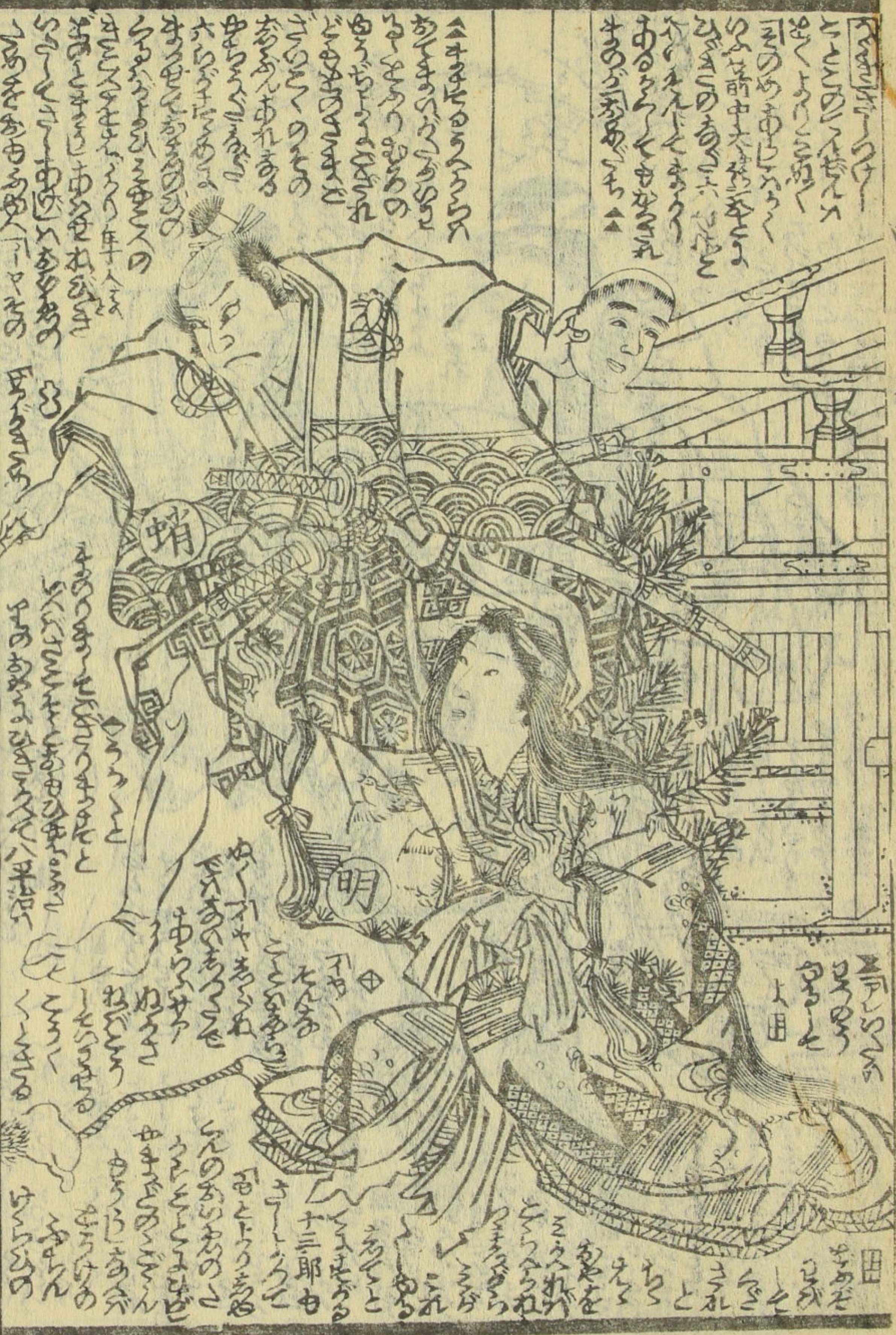


Handwritten text in vertical columns, likely a narrative or dialogue, surrounding the illustrations on the left page.

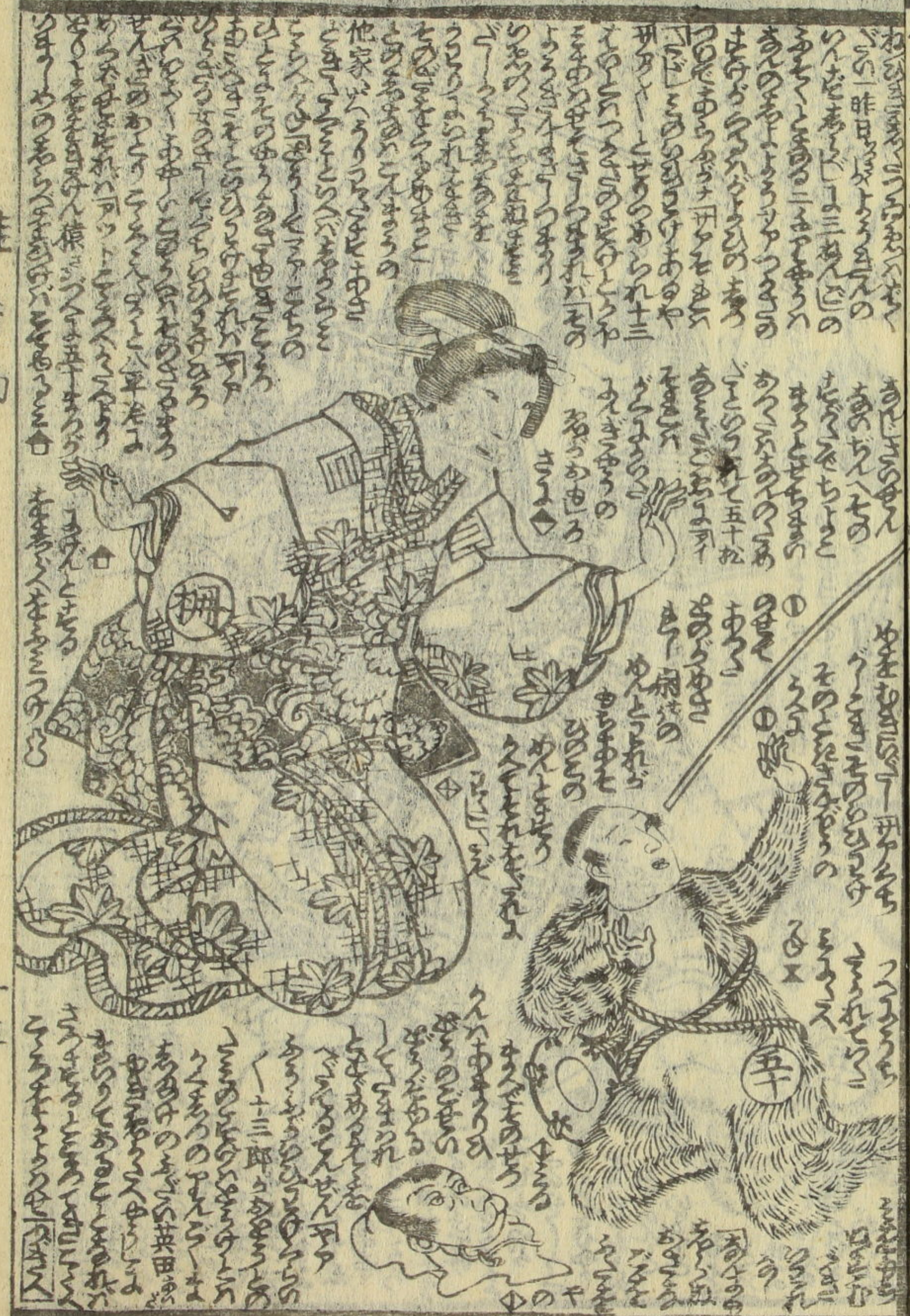




Handwritten text in the top right corner, likely a title or introductory text.

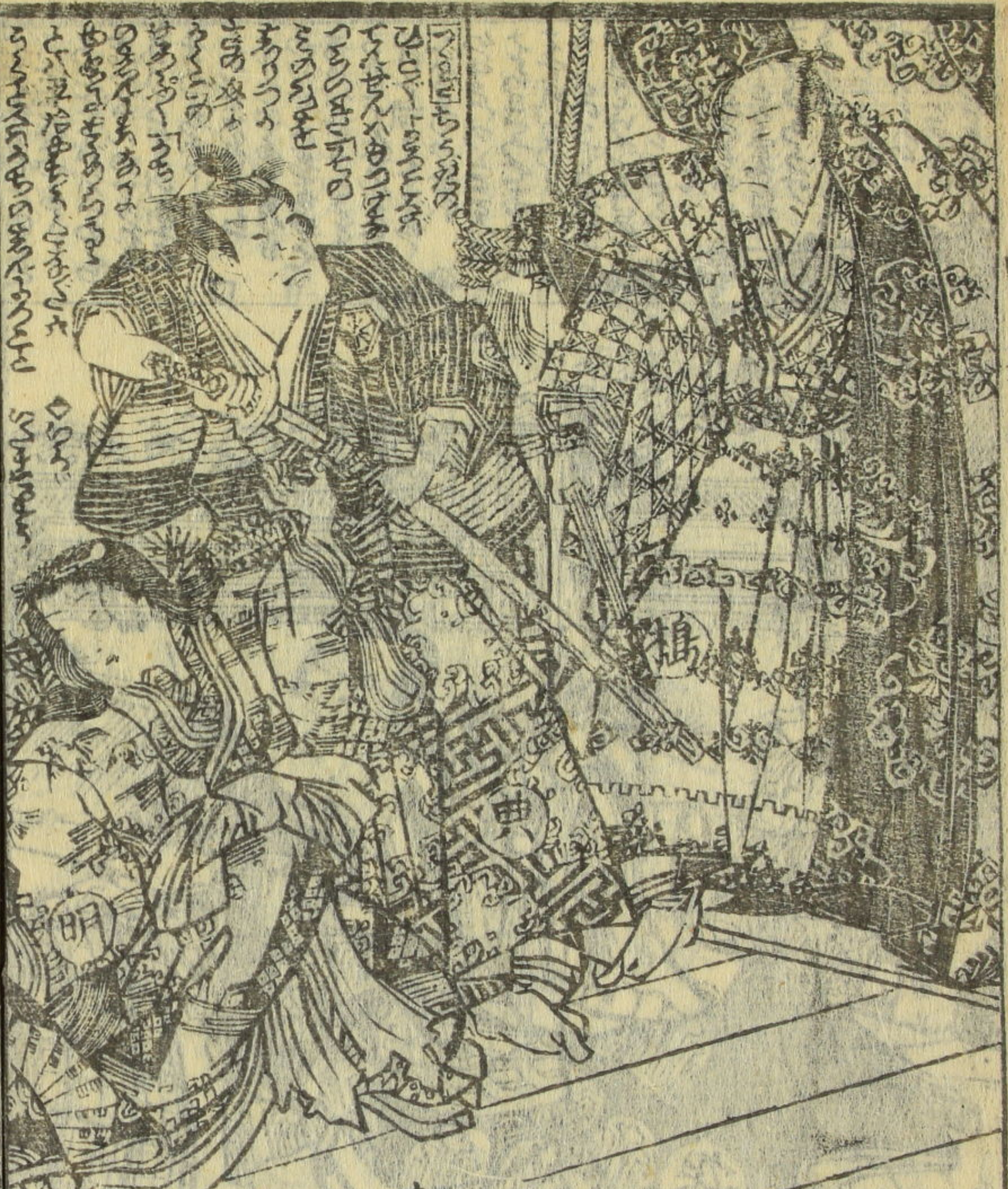


Vertical handwritten text columns on the right side of the page, providing commentary or descriptions for the illustration.



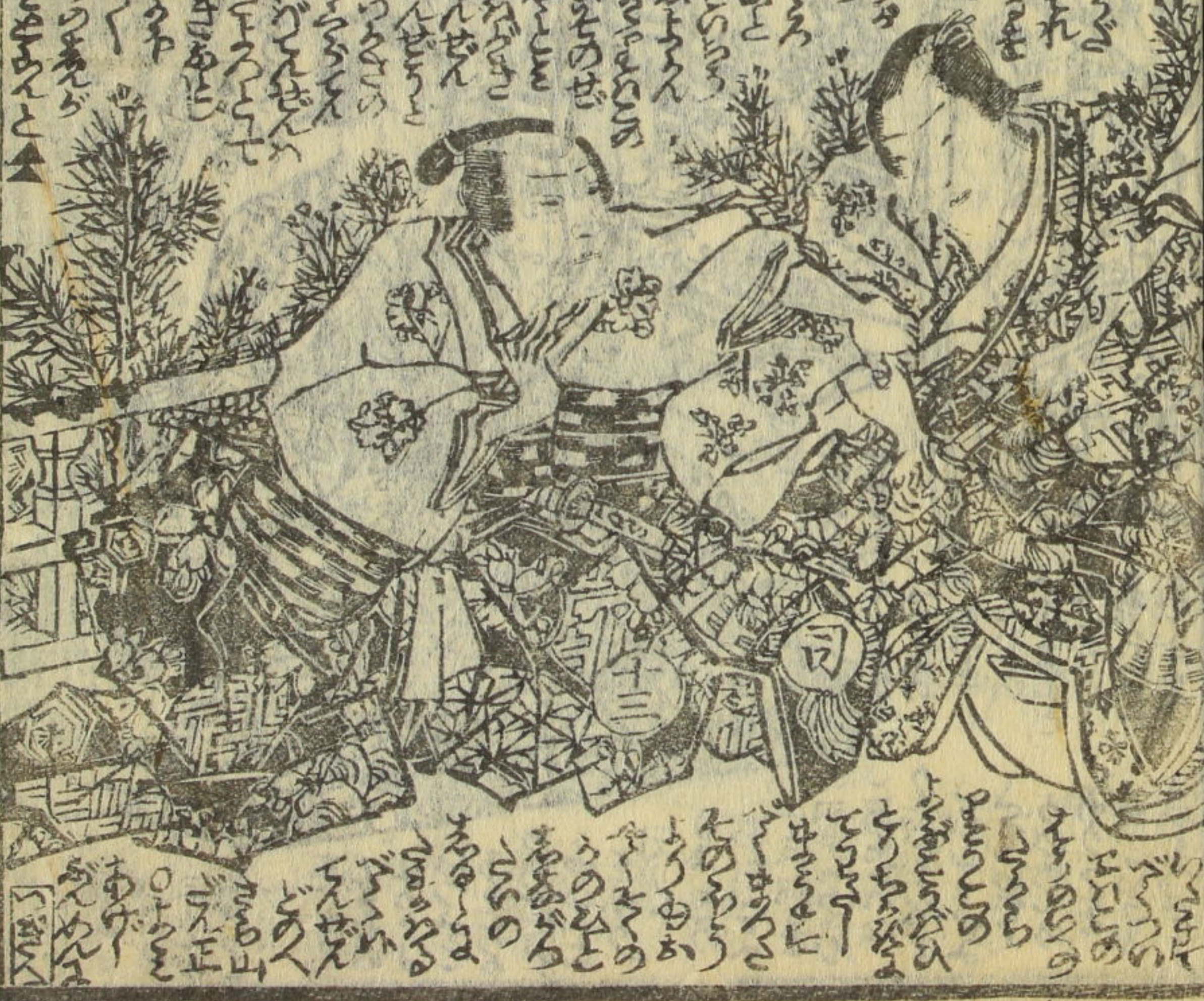
Vertical handwritten text columns on the left side of the page, providing commentary or descriptions for the illustration.

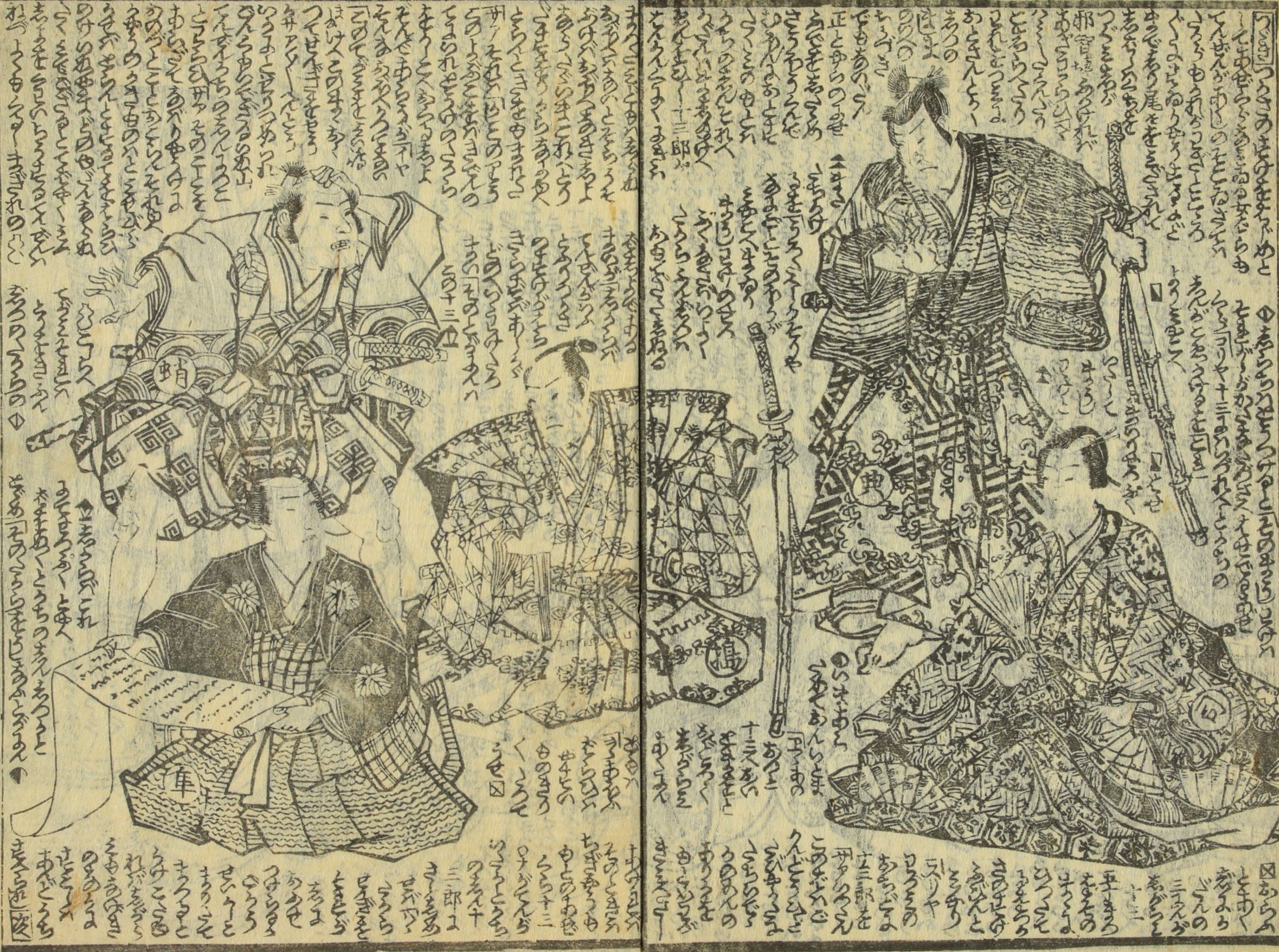




此圖之畫
 乃畫一婦人
 坐於椅上
 手持一物
 其物之形
 似一樂器
 或一書卷
 其畫法之
 精細
 實為罕見
 此圖之景
 亦極其雅
 緻

此圖之畫
 乃畫一婦人
 坐於椅上
 手持一物
 其物之形
 似一樂器
 或一書卷
 其畫法之
 精細
 實為罕見
 此圖之景
 亦極其雅
 緻



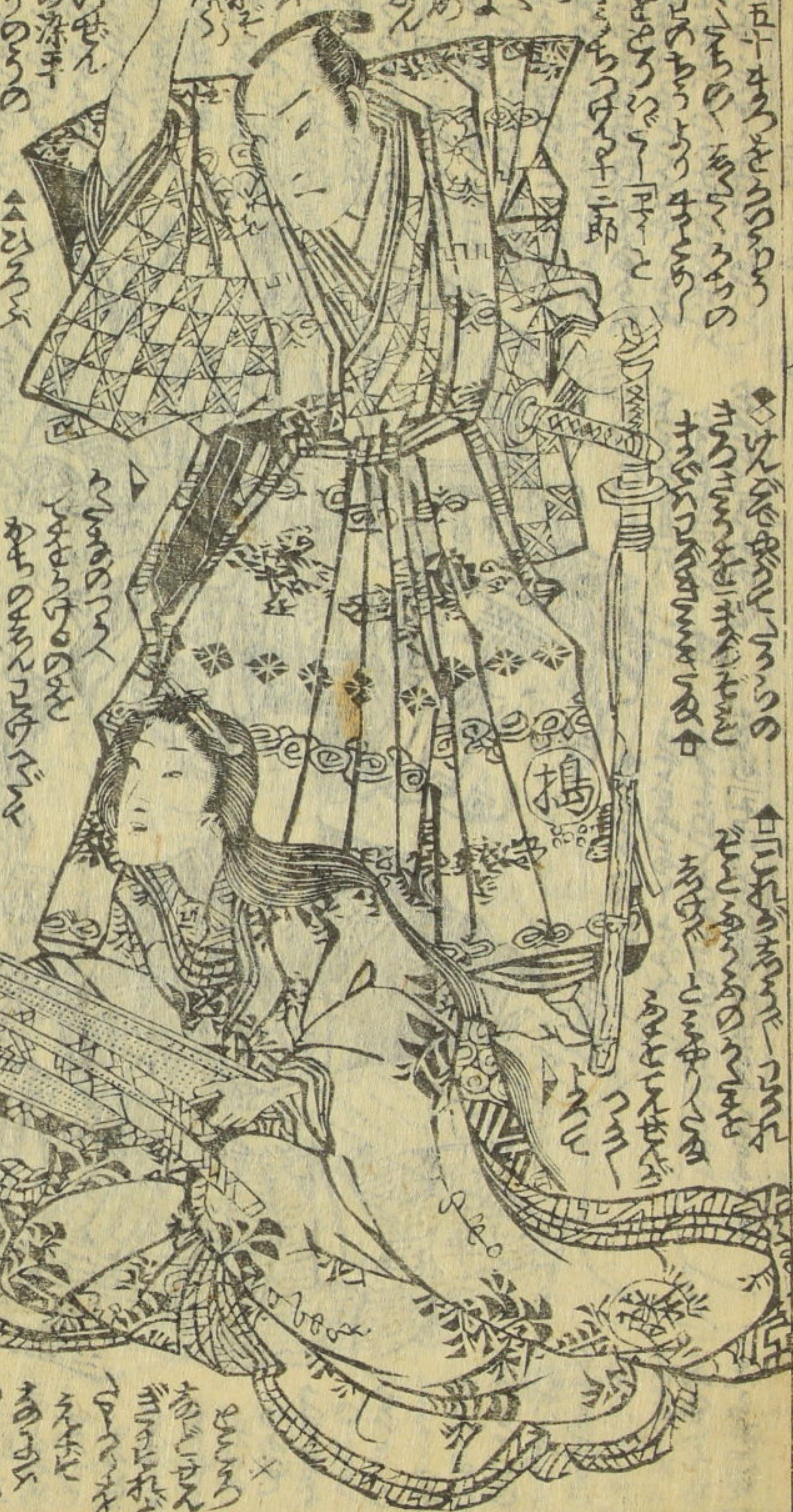


Handwritten text in a cursive script, likely representing dialogue or stage directions for the scene above. The text is arranged in vertical columns, following the contours of the figures and the scene.

Handwritten text in a cursive script, continuing the dialogue or stage directions from the scene above. The text is arranged in vertical columns, following the contours of the figures and the scene.

Handwritten text in a cursive script, continuing the dialogue or stage directions from the scene above. The text is arranged in vertical columns, following the contours of the figures and the scene.

Handwritten text in a cursive script, likely a Japanese calligraphic style, surrounding the illustrations. The text is arranged in vertical columns, with some lines crossing between the two pages.



Handwritten text in a cursive script, continuing from the right page. The text is arranged in vertical columns, with some lines crossing between the two pages.



元治二年乙丑陽春開板標目

瀬川如臯作



梅蝶樓國貞画

室町源氏胡蝶卷

五編
名馬坊
梅蝶樓國貞画

新編九尾傳

為永春水作
梅蝶樓國貞画

假名情談戀時倉

三編 如臯作
四編 國貞画

童話妙々車

十八編 種彦作
十九編 國貞画

薄保幻日記

十三編 春水作
十四編 國貞画

筆海四國聞書

編 種彦作
編 國貞画

明鶴墨画廻函情

九編 種彦作
一編 國貞画

花封女官草

九編 種彦作
十編 國貞画

大傳人の双紙

一編 柳亭兼
二編 國貞画

地木双紙問屋

鳥屋吉藏板

田舎

一

